

学生No. 1
 MAS 2時間
 STO 2時間30分
 KIM 3時間25分
 KUS 3時間20分
 SRA 3時間15分
 KAS 2時間40分
 TJA 2時間30分
 TOR 2時間53分
 平均 2時間58分

学生No.	MAS	STO	KUS	KIM	SRA	KAS	TJA	JUN	TOR
118	42	42	42	42	42	42	42	42	42
119	42	42	42	42	42	42	42	42	42
120	42	42	42	42	42	42	42	42	42
121	42	42	42	42	42	42	42	42	42
122	42	42	42	42	42	42	42	42	42
123	42	42	42	42	42	42	42	42	42
124	42	42	42	42	42	42	42	42	42
125	42	42	42	42	42	42	42	42	42
126	42	42	42	42	42	42	42	42	42
127	42	42	42	42	42	42	42	42	42
128	42	42	42	42	42	42	42	42	42
129	42	42	42	42	42	42	42	42	42
130	42	42	42	42	42	42	42	42	42
131	42	42	42	42	42	42	42	42	42
132	42	42	42	42	42	42	42	42	42
133	42	42	42	42	42	42	42	42	42
134	42	42	42	42	42	42	42	42	42
135	42	42	42	42	42	42	42	42	42
136	42	42	42	42	42	42	42	42	42
137	42	42	42	42	42	42	42	42	42
138	42	42	42	42	42	42	42	42	42
139	42	42	42	42	42	42	42	42	42

0点以上2項目以上あり不合格

学生No.	MAS	STO	KUS	KIM	SRA	KAS	TJA	JUN	TOR
140	42	42	42	42	42	42	42	42	42
141	42	42	42	42	42	42	42	42	42
142	42	42	42	42	42	42	42	42	42
143	42	42	42	42	42	42	42	42	42
144	42	42	42	42	42	42	42	42	42
145	42	42	42	42	42	42	42	42	42
146	42	42	42	42	42	42	42	42	42
147	42	42	42	42	42	42	42	42	42
148	42	42	42	42	42	42	42	42	42
149	42	42	42	42	42	42	42	42	42
150	42	42	42	42	42	42	42	42	42
151	42	42	42	42	42	42	42	42	42
152	42	42	42	42	42	42	42	42	42
153	42	42	42	42	42	42	42	42	42
154	42	42	42	42	42	42	42	42	42
155	42	42	42	42	42	42	42	42	42
156	42	42	42	42	42	42	42	42	42
157	42	42	42	42	42	42	42	42	42
158	42	42	42	42	42	42	42	42	42
159	42	42	42	42	42	42	42	42	42
160	42	42	42	42	42	42	42	42	42

6割を超えず不合格

下図は、大学の保存修復学実習の歯髄保護（覆髄・裏層）／直接・間接覆髄の示説用の付図であり、本モデル実技試験 問題1. 歯髄保護（覆髄・裏層）および仮封の付図と類似しております。

参考に6枚添付致します。（出典；加藤喜郎：生物学的接着修復の臨床 1. 基本術式編 第1版、78～82（図VI-2、16、19、28、30、49）、クインテッセンス、東京、1997.）

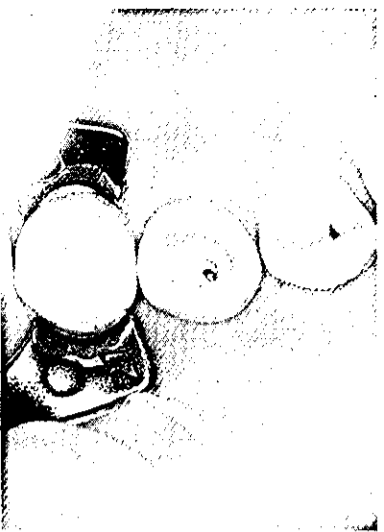


図 1

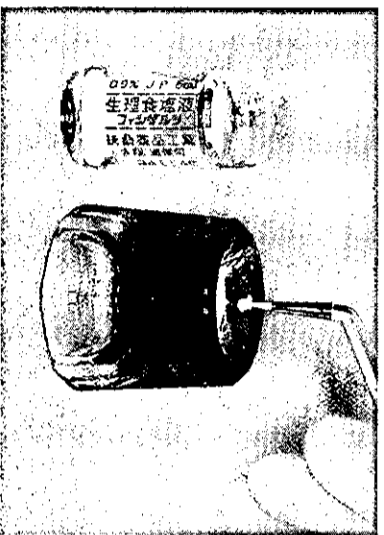


図 2



図 3



図 4

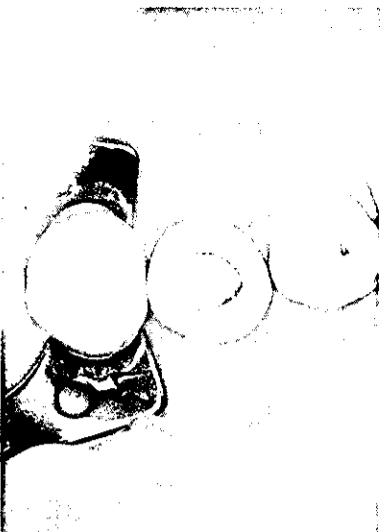


図 5

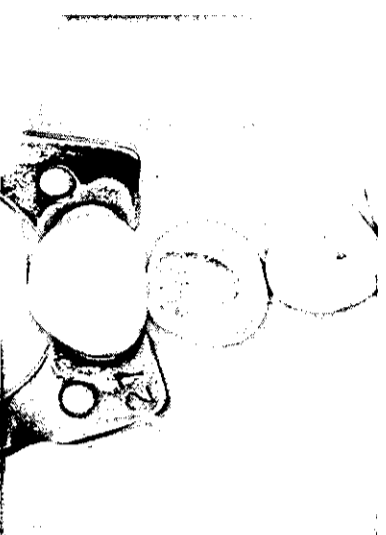


図 6

- 図 1 4]の咬合面頬側髄角部に $\phi 1.5 \sim 2.0 \text{mm}$ の露髄部が見られる。
- 図 2 滅菌単ガーゼで清拭した小筆をもう一度生理食塩液で濡らした後に水酸化カルシウム粉末に接触させて、小筆の先端部に水酸化カルシウム泥の小塊を作る。
- 図 3 直接歯髄覆罩後の窩洞内所見。露髄面は水酸化カルシウムによって過不足なく、適正な厚みで被覆する。
- 図 4 CRシリンジを押しして適量の酸化亜鉛ユージオールセメント泥を水酸化カルシウムの上に押し出してできるだけ無圧的に積層する。
- 図 5 間接歯髄覆罩後の窩洞内所見。ユージオールセメントによって水酸化カルシウムおよび窩底象牙質は過不足なく、適正な厚みで被覆されている。口腔内におけるセメントの硬化時間は3～5分間である。
- 図 6 グラスアイオノマーセメントのベースセメント[®]／ピンクによる裏層および仮封の完成形態。この状態で一定期間経過観察を行い、結果が良ければ永久修復に移行する。

試験 1 (透明根管模型による根管拡大・形成試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1	#40	終了	30分
被験者 2	#35	仕上げ	35分
被験者 3	#50	終了	30分
被験者 4	#45	終了	30分
被験者 5	#25	#80	37分
被験者 6	#15	#50	43分
被験者 7	#15	#40	43分
被験者 8	#40	終了	27分
被験者 9	#35	#80	37分
被験者 10	#30	#45	36分
被験者 11	#20	#80	37分
平均			35分

試験 2 (透明根管模型による根管充填試験)

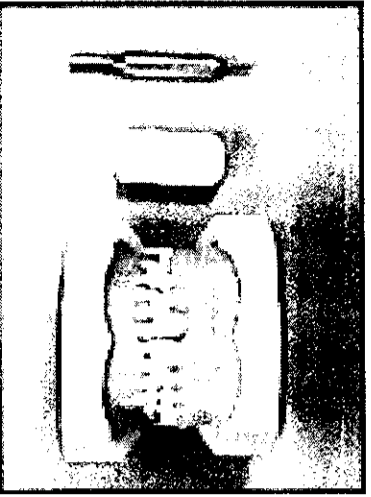
被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1			14分
被験者 2			15分
被験者 3			16分
被験者 4			14分
被験者 5			17分
被験者 6			14分
被験者 7			18分
被験者 8			11分
被験者 9			18分
被験者 10			20分
被験者 11			14分
平均			15.5分

試験 3 (顎模型根管付人工歯による根管拡大・形成試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1	#40	終了	30分
被験者 2	#40	終了	30分
被験者 3	#35	終了	30分
被験者 4	#35	仕上げ	34分
被験者 5	#25	仕上げ	34分
被験者 6	#40	終了	30分
被験者 7	#15	#70	37分
被験者 8	#45	終了	26分
被験者 9	#40	仕上げ	34分
被験者 10	#40	終了	30分
被験者 11	#40	仕上げ	33分
平均			31.6分

試験 4 (顎模型根管付人工歯による根管充填試験)

被験者	15分経過	30分経過	終了時刻
被験者 1			13分
被験者 2			13分
被験者 3			8分
被験者 4			9分
被験者 5			12分
被験者 6			13分
被験者 7			14分
被験者 8			11分
被験者 9			13分
被験者 10			11分
被験者 11			12分
平均			10.7分

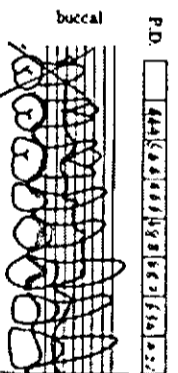


歯周病顎模型を用い、歯周ポケット診査および歯肉辺縁の位置の記入を行う。

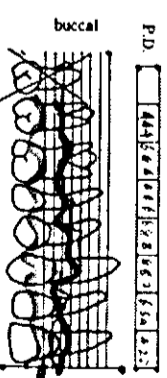


正答の歯肉ラインとポケット底のラインを透明シートに記入しておき、学生の解答を重ねて解答と正答の差を主観的に判断する。

*なお図の横線は1メモリ2mmで示しています。



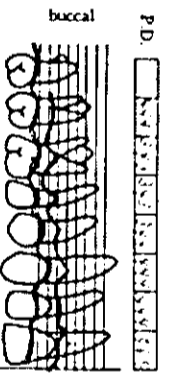
*なお図の横線は1メモリ2mmで示しています。



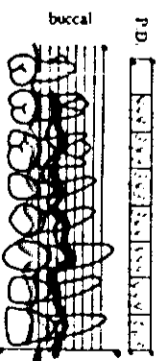
Aランク評価を与えた解答

正答を重ね合わせたところ

*なお図の横線は1メモリ2mmで示しています。



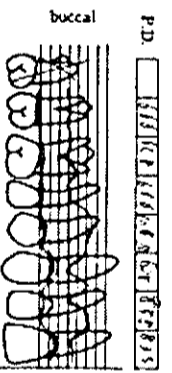
*なお図の横線は1メモリ2mmで示しています。



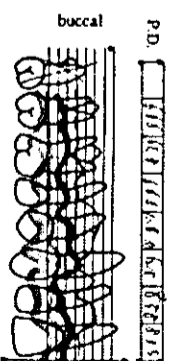
Bランク評価の解答

正答を重ね合わせたところ

*なお図の横線は1メモリ2mmで示しています。



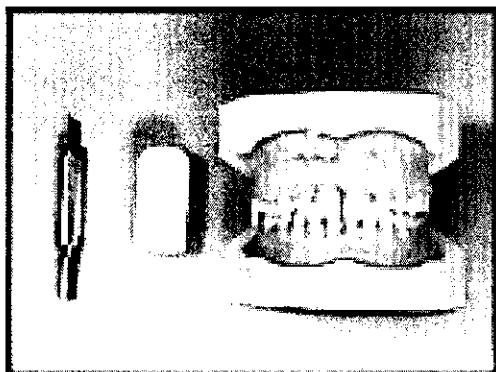
*なお図の横線は1メモリ2mmで示しています。



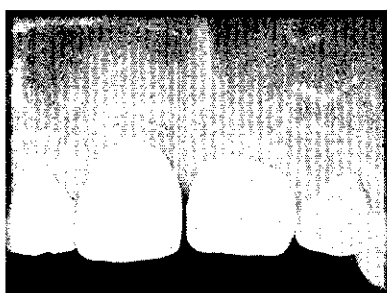
Cランク評価の解答

正答を重ね合わせたところ

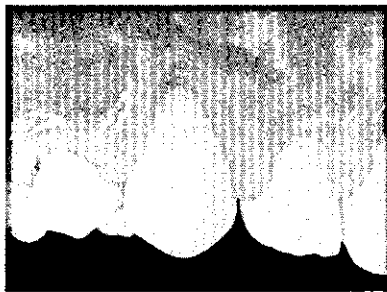
問題 2



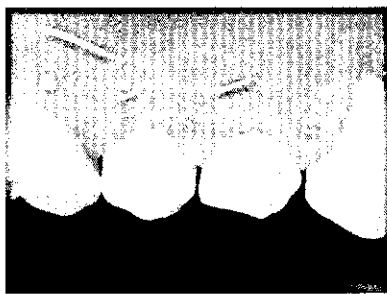
問題 1 と同じ顎模型



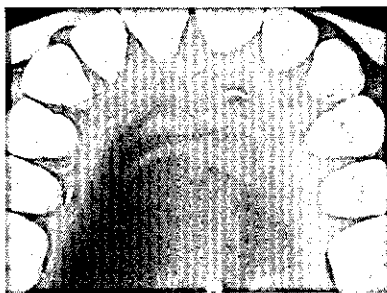
小帯異常



クレフト



フェストウーン



テンションリッジ

このような歯肉の形態異常を再現した顎模型から質問された歯肉の形態異常の有無および部位を答えさせる。分岐部病変についても同様に行う。

頭頸部の診察 評価表

資料 17

項 目							
1	患者と同じ目線の高さで座ったか	2点	1点	0点			
2	顎顔面全体の診察をする旨を話し了承を得たか	4点	3点	2点	1点	0点	
3	左側頭筋の触診は適切であったか	5点	4点	3点	2点	1点	0点
	患者の頭位	可	否	それぞれ可は1点、 否は0点と計算して下さい。			
	患者に対する術者の位置	可	否				
	術者の右手の位置	可	否				
	側頭筋の触診の仕方は適切であったか	可	否				
	機能時(噛みしめ時)に触診したか	可	否				
4	左顎関節部の触診は適切であったか	4点	3点	2点	1点	0点	
	患者の頭位	可	否	それぞれ可は1点、 否は0点と計算して下さい。			
	患者に対する術者の位置	可	否				
	術者の右手の位置	可	否				
	開・閉口運動の指示は適切であったか	可	否				
5	左咬筋の触診は適切であったか	5点	4点	3点	2点	1点	0点
	患者の頭位	可	否	それぞれ可は1点、 否は0点と計算して下さい。			
	患者に対する術者の位置	可	否				
	術者の右手の位置	可	否				
	咬筋の触診の仕方は適切であったか	可	否				
	機能時(噛みしめ時)に触診したか	可	否				
6	左顎下リンパ節の触診方法は適切であったか	4点	3点	2点	1点	0点	
	患者の頭位	可	否	それぞれ可は1点、 否は0点と計算して下さい。			
	患者に対する術者の位置	可	否				
	術者の右手の位置	可	否				
	術者の左手の位置	可	否				
7	左胸鎖乳突筋の触診は適切であったか	3点	2点	1点	0点		
	患者の頭位	可	否	それぞれ可は1点、 否は0点と計算して下さい。			
	患者に対する術者の位置	可	否				
	術者の右手の位置	可	否				

概略評価	優	良	可	境界	不可
	5点	4点	3点	2点	1点

頭頸部の診察 評価基準
(診察開始前の患者さんの頭位は20°～30°の後屈で固定)

項目			
1 患者と同じ目線の高さで座ったか	2点: 座位で目線を合わせる	1点: 座位だが目線を合わせない	0点: 見下ろす
2 顎顔面全体の診察をする旨を話し了承を得たか	4点: 適切な態度で説明して承諾を得	3点: 説明して承諾を得た	2点: 説明のみ 1点: 説明無しに診察
3 左側頭筋の触診は適切であったか	可の基準 垂直位、前屈までは可 7-8時の位置から側方位	否の基準 後屈 後方位 側頭筋部以外	
患者に対する術者の位置			
術者の右手の位置			
側頭筋の触診の仕方	触診あり	触診無し	
機能時(噛みしめ時)に触診していたか	噛みしめ時	噛みしめ時以外	

左顎関節部の触診は適切であったか	可の基準 垂直位、前屈までは可 7-8時の位置から側方位	否の基準 後屈 後方位
患者の頭位		
患者に対する術者の位置		
術者の右手の位置	顎関節部	顎関節部以外
開・閉口運動の指示は適切であったか	開口、閉口運動とも指示あり	指示無し

5 左咬筋の触診は適切であったか	可の基準 垂直位、前屈までは可 7-8時の位置から側方位	否の基準 後屈 後方位
患者の頭位		
患者に対する術者の位置		
術者の右手の位置	咬筋部	咬筋部以外
咬筋の触診方法は適切であったか	触診あり	触診無し
機能時(噛みしめ時)に触診していたか	噛みしめ時	噛みしめ時以外

6 左顎下リソバ節の触診は適切であったか	可の基準 前屈でしかも左側傾斜 7-8時の位置から側方位	否の基準 非前屈または非傾斜 後方位
患者の頭位		
患者に対する術者の位置		
術者の右手の位置	第2指から5指までは下顎骨の下方	顎下部以外
術者の左手の位置	頭頂部	頭頂部以外
7 左胸鎖乳突筋の触診は適切であったか	可の基準 垂直位、前屈までは可 7-8時の位置から側方位	否の基準 後屈 後方位
患者の頭位		
患者に対する術者の位置		
術者の右手の位置	左胸鎖乳突筋	左胸鎖乳突筋以外

概略評価: 以下の項目を考慮して判断してください

- a. 診察態度に思いやりがある
- b. 逐次声かけがある
- c. 左右の比較をしながら触診している

可否基準

- 1. 概略評価で1点は不合格
- 2. 概略評価で2点は判定保留
- 3. 合計20点(32点満点)未満は判定保留

資料19

手術内容別請求割合

(平成8年6月社会医療診療行為別調査報告書)

診療行為	%
拔牙	12.8%
前歯	25.8%
臼歯	4.9%
難拔牙	0.9%
埋伏歯	44.4%
小計	

診療行為	%
歯根嚢胞摘出術	0.9%
歯槽骨整形術	13.6%
歯肉息肉除去手術	5.9%
歯肉膿瘍切開等	10.6%
骨膜下膿瘍切開	2.3%
小計	33.3%

{(%)は全手術処置における割合}

総計:1,728,081件(77.7%)

フアントム実習の課題内容

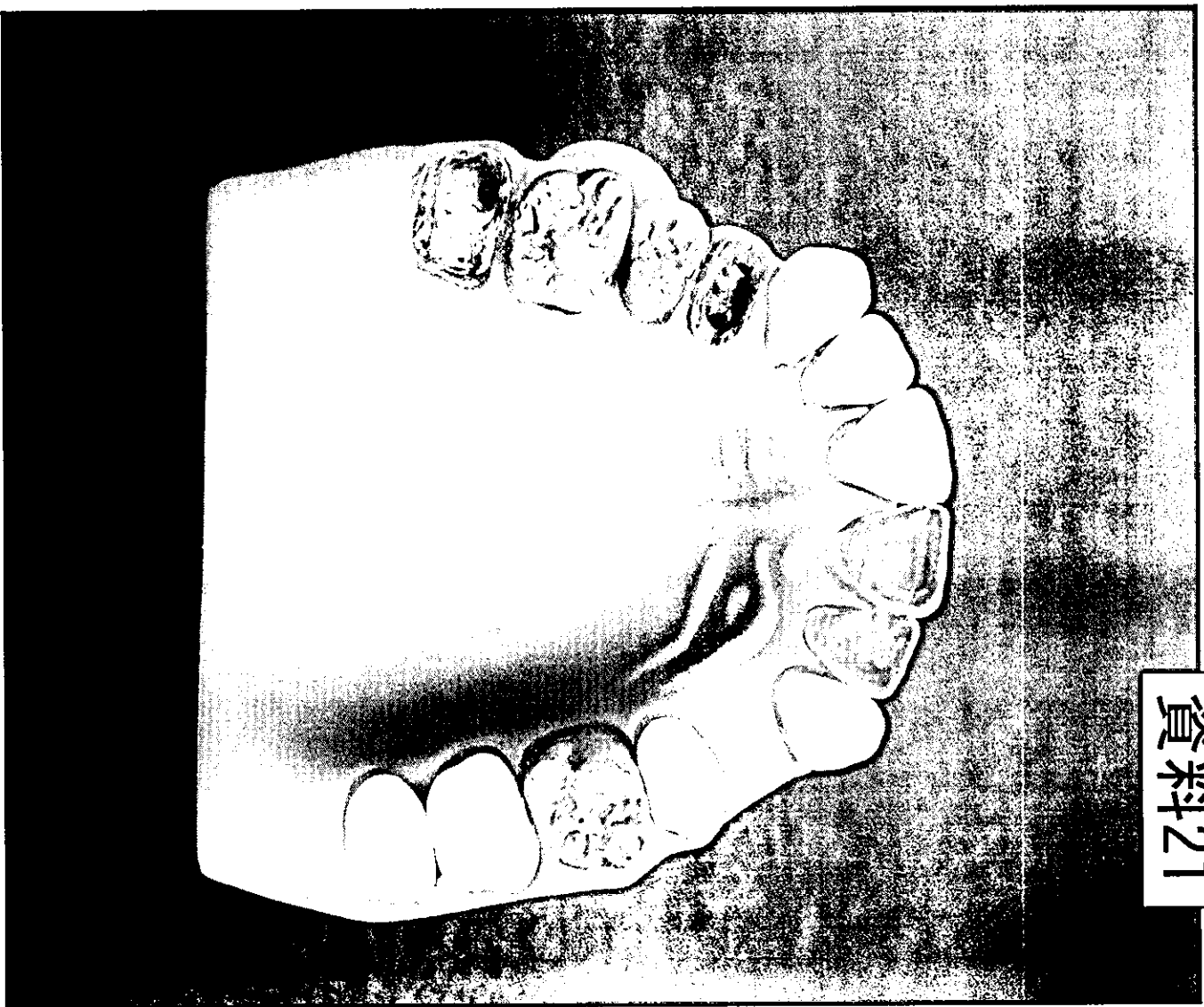
(平成12年度全国歯科大学(歯学部)調査)

手術	実施率
普通抜歯	69%
埋伏智歯抜去	59%
切開法	66%
縫合法	72%
歯根嚢胞摘出術	38%
歯根端切除術	41%

処置・検査	実施率
顎間固定法	66%
口腔内包帯法	10%
スプリント療法	10%
一般血液検査	62%
出血性素因	55%
尿検査	55%

上顎モデル

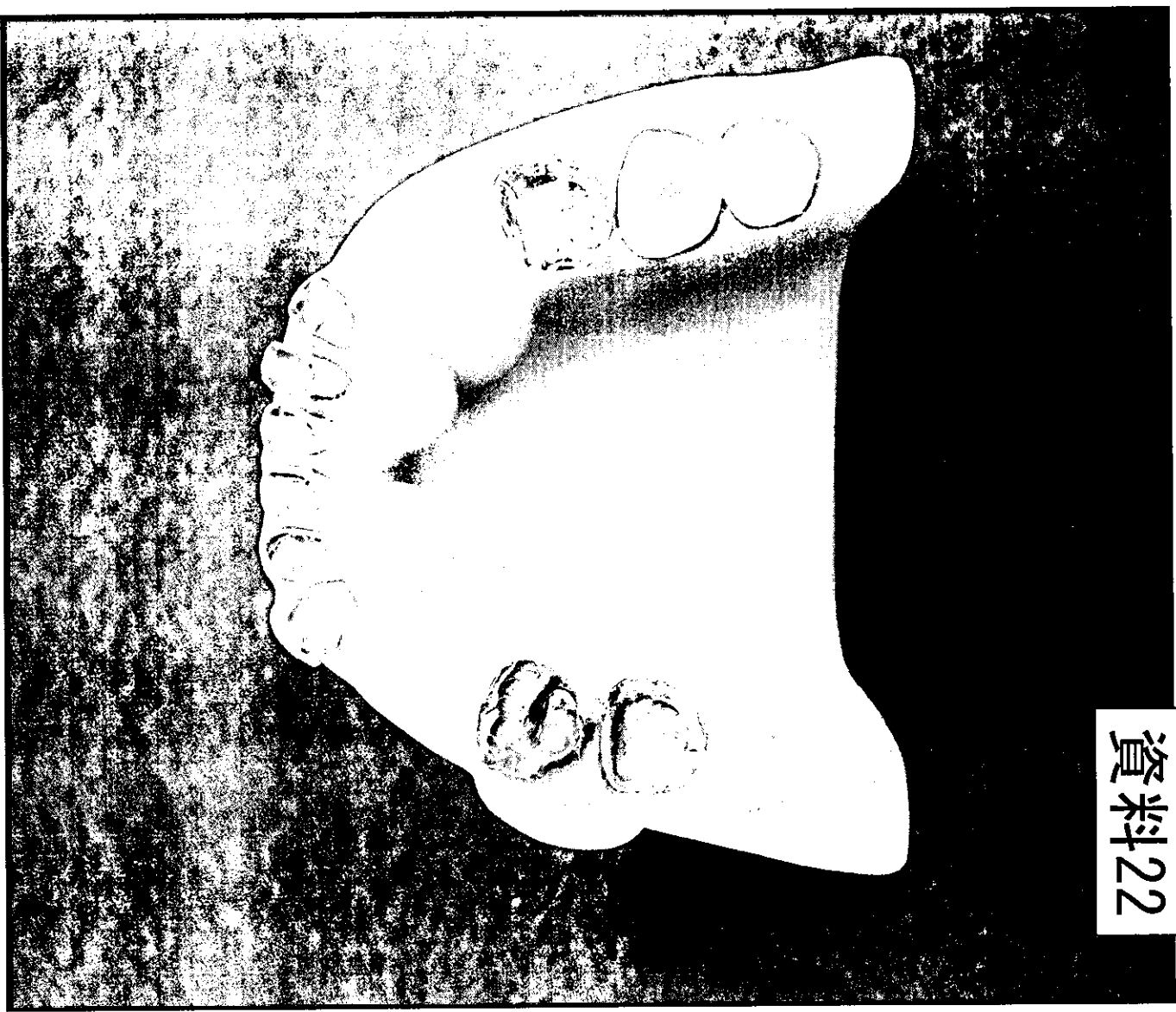
疾患名
C ₄
埋伏歯
欠損歯
根尖性歯周炎
辺縁性歯周炎
歯根嚢胞
歯周膿瘍
口蓋隆起



資料21

下顎モデル

疾患名
C ₄
埋伏歯
欠損歯
根尖性歯周炎
辺縁性歯周炎
歯根嚢胞
歯周膿瘍
下顎隆起



対応するパノラマエックス線写真



評価票

診断名		マークシート部分																診断名	
診断名	部 位	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	部 位	診断名
		8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8		
診断名		マークシート部分																診断名	

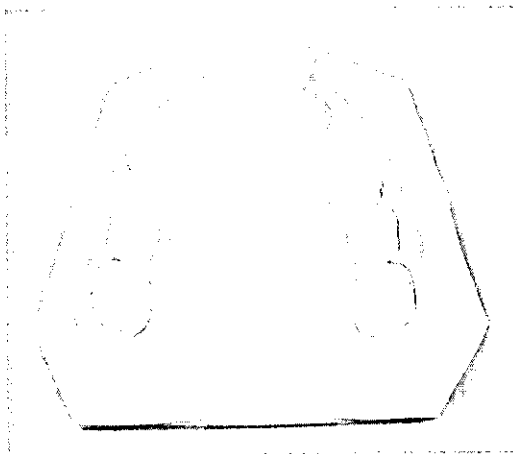
受験者用資料

(課題) アルジネートを用いた上顎の印象採得と矯正診断用上顎模型の作製

マネキンを患者さんに見立てて上顎全体の印象を採得し、硬石膏を用いて矯正診断にあたって必要な情報を有する上顎の模型を作製せよ制限時間は60分。

(注意事項)

- ・印象トレーにつけるピンクラベルならびに模型底面への貼付用白ラベルに受験番号と氏名のイニシャルを記入せよ(例: 23番、J.M)。
- ・用意された器具、材料を用いて印象材を練和(手練り)して上顎の印象を採得せよ。
- ・マネキンの頭位は必要に応じて上下させてかまわない。
- ・印象硬化後、硬石膏を練和し上顎模型を作製する。
- ・ラバーボールは印象採得後洗浄し、石膏練和用として使用すること。
- ・石膏硬化後、下図のようにトリミングを行い模型底面も可及的に平坦化させること。
- ・完成した模型の底面にデンタルシャノンを用いて白ラベルを貼付せよ。
- ・印象トレーは印象がついた状態でピンクラベルを付けてポリ袋に入れ、模型と一緒に提出せよ。
- ・時間内であれば印象の練り直し、採り直しをしてもかまわない。



評価シート

受験者番号： _____

名前 (イニシャル)： _____

評価者 (イニシャル)： _____

Excellent (10) Good (8) Moderate (6) Fair (3) Poor (0)

(印象探得： 模型撤去後の印象を評価)

1. トリーの位置づけは適切であったか

(上顎模型・矯正診断に必要な要素)

2. 上顎歯列弓形態、左右対称性の確認
3. 歯肉縁の確認が可能か
4. 口蓋形態、深さの確認が可能か
5. 小帯の付着状態を確認できるか
6. 歯槽基底弓長径の計測が可能か
7. 歯槽基底弓幅径の計測が可能か

(模型の作製能力)

8. 気泡の有無
9. 表面精度は良好か
10. 模型の仕上げ (基底部を含む)

合計： _____ 点/100点満点

Poor (0) 項目数： _____ 項目/10項目

評価規準マニュアル

評価項目	
1	①位置づけが正しい ②気泡が無い ③印象材の後方への流れが顕著でない ④トレー圧接が適切 (トレーの金属部露出が無い) (全て満たす場合に10点、以下1項目減ることに8、6、3、0点とする)
2	①上顎結節部が模型上に再現 ②6/遠心部から模型後面までの距離が左右で一致 ③側方歯群から模型側面までの距離が左右で一致 ④前歯部から模型前面までの距離が左右で一致 (全て満たす場合に10点、以下1項目減ることに8、6、3、0点とする)
3	10点：歯肉縁に1mm以上の気泡がない 8点：気泡が1個 6点：気泡が2個 3点：気泡が3個 0点：気泡が4個以上
4	10点：口蓋最深部に気泡がない 8点：気泡がφ1mm以下 6点：気泡がφ3mm以下 3点：気泡がφ5mm以下 0点：気泡がφ7mm以上
5	10点：4つの小帯 (上唇小帯1、頬小帯3) 全て確認可能 8点：3つ可能 6点：2つ可能 3点：1つ可能 0点：確認不可能
6	10点：上唇小帯両側部と左右6/部4箇所を確認可能 8点：3箇所可能 6点：2箇所可能 3点：1箇所可能 0点：確認不可能
7	10点：左右46/部の4箇所を確認可能 8点：3箇所可能 6点：2箇所可能 3点：1箇所可能 0点：確認不可能
8	10点：印象面に1mm以上の気泡がない 8点：気泡が1個 6点：気泡が2個 3点：気泡が3個 0点：気泡が4個以上
9	10点：側面・底面に気泡がほとんどない 8点：少しある 6点：やや多い 3点：多い 0点：かなり多い (気泡の密度で判断)
10	示した図のとおりにトリミングされているかおよび底面と咬合平面の平行性 ①底面と咬合平面がほぼ平行 ②前方部のトリミングが適切 ③側方部のトリミングが適切 ④後方部のトリミングが適切 (全て満たす場合に10点、以下1項目減ることに8、6、3、0点とする)

受験生：卒後1、2年の先生10人、評価者：教員
4名

信頼性の評価

課題：アルジネートを用いた上顎の印象採得と矯正診断用上顎模型の作製

(表1) 同一作品を2回採点して、一致度係数を求める (60点以上合格)

	評価者：TH	評価者：MY	評価者：IS	評価者：TF
a: 1回目も2回目も合格	10	10	10	10
b: 1回目は合格、2回目不合格	0	0	0	0
c: 1回目は不合格、2回目合格	0	0	0	0
d: 1回目も2回目も不合格	0	0	0	0
総人数	10	10	10	10
一致度係数 (a+d)/(a+b+c+d)	1.0	1.0	1.0	1.0

(表2) 同一作品を2回採点して、一致度係数を求める (75点以上合格)

	評価者：TH	評価者：MY	評価者：IS	評価者：TF
a: 1回目も2回目も合格	8	10	9	7
b: 1回目は合格、2回目不合格	1	0	1	1
c: 1回目は不合格、2回目合格	0	0	0	1
d: 1回目も2回目も不合格	1	0	0	1
総人数	10	10	10	10
一致度係数 (a+d)/(a+b+c+d)	0.9	1.0	0.9	0.8

(表3) 同一作品を2回採点して、一致度係数を求める (5段階評価で「0」が一つを不合格と判定)

	評価者：TH	評価者：MY	評価者：IS	評価者：TF
a: 1回目も2回目も合格	7	10	6	9
b: 1回目は合格、2回目不合格	1	0	3	1
c: 1回目は不合格、2回目合格	1	0	0	0
d: 1回目も2回目も不合格	1	0	1	0
総人数	10	10	10	10
一致度係数 (a+d)/(a+b+c+d)	0.8	1.0	0.7	0.9

受験生：卒後1、2年の先生10人、評価者：教員
4名

信頼性の評価

課題：アルジネートを用いた上顎の印象採得と矯正診断用上顎模型の作製

(表4) 同一課題を日を異にして2回反復して実施し、一致度係数を求める

	評価者：TH	評価者：MY	評価者：IS	評価者：TF
a: 1回目も2回目も合格	10	10	10	10
b: 1回目は合格、2回目不合格	0	0	0	0
c: 1回目は不合格、2回目合格	0	0	0	0
d: 1回目も2回目も不合格	0	0	0	0
総人数	10	10	10	10
一致度係数 (a+d)/(a+b+c+d)	1.0	1.0	1.0	1.0

(表5) 同一課題を日を異にして2回反復して実施し、一致度係数を求める (75点以上合格)

	評価者：TH	評価者：MY	評価者：IS	評価者：TF
a: 1回目も2回目も合格	9	8	8	8
b: 1回目は合格、2回目不合格	0	2	2	0
c: 1回目は不合格、2回目合格	1	0	0	2
d: 1回目も2回目も不合格	0	0	0	0
総人数	10	10	10	10
一致度係数 (a+d)/(a+b+c+d)	0.9	0.8	0.8	0.8

(表6) 同一課題を日を異にして2回反復して実施し、一致度係数を求める (5段階評価で「0」が一つ以上を不合格と判定)

	評価者：TH	評価者：MY	評価者：IS	評価者：TF
a: 1回目も2回目も合格	8	10	7	9
b: 1回目は合格、2回目不合格	0	0	2	1
c: 1回目は不合格、2回目合格	1	0	1	0
d: 1回目も2回目も不合格	1	0	0	0
総人数	10	10	10	10
一致度係数 (a+d)/(a+b+c+d)	0.9	1.0	0.7	0.9

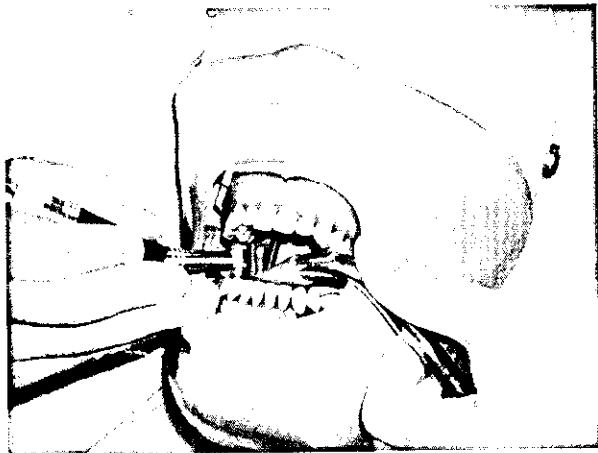


図1 実習用ファントム (治療実習用歯列モデル)



図2 治療実習の例

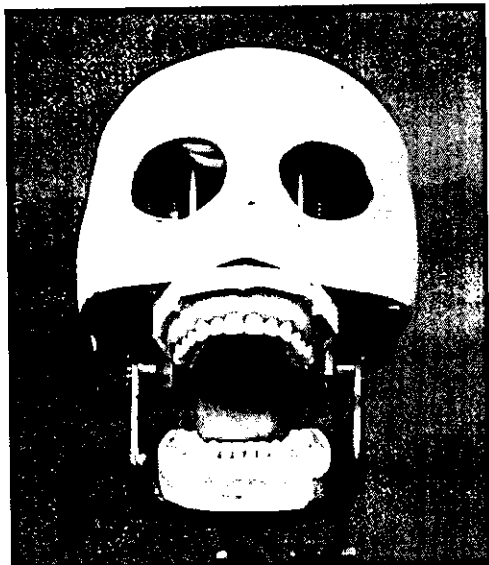


図3 患者ロボット駆動部
(試作1号機)



図4 患者ロボット外観
(試作1号機)